

IV 精密検査業務の概要

◎精密検査実施状況

＜と畜検査関係＞

令和6年度のと畜検査においては、692頭（延べ1956検体）について精密検査を実施した。（牛海綿状脳症スクリーニング検査を除く。）

＜TSE検査関係＞

平成29年度から牛海綿状脳症スクリーニング検査対象が変更となり、令和6年度は牛、めん羊及び山羊すべてで検査は実施されなかった。

＜食鳥検査関係＞

令和6年度の食鳥検査においては、2羽（延べ10検体）について精密検査を実施した。

◎食肉衛生に関する検査・調査

＜残留抗菌性物質の検査＞

とさつ解体時に注射痕等が認められた牛5頭について検査を実施した結果、陽性事例はなかった。

＜残留有害物質モニタリング調査＞

令和6年度に行ったモニタリング検査数は404件であった。その内訳は、抗生物質404件であり、残留基準値以上の残留有害物質が検出されたものはなかった。

＜放射性物質スクリーニング検査＞

群馬県では平成23年7月31日から県内でと畜された肉牛について全頭検査を実施していたが、現在は超過事例もなく、安全性に問題がないこと、検査を終了しても流通上の混乱を招かないと判断し、令和2年3月末をもって終了した。

1 精密検査の実施状況

1) 検査区分別精密検査実施状況(牛海綿状脳症を除く)(令和6年度)

検査対象病名 / 区 分		精密検査頭羽数	検査区分別精密検査検体数				
			総検体数	細菌検査	寄生虫検査	理化学検査	病理検査
総 数		694	1,966	1,078	0	90	798
と畜場法	小 計	692	1,956	1,078	0	90	788
	豚 丹 毒	277	942	942	0	0	0
	サルモネラ	2	12	12	0	0	0
	非定型抗酸菌症	7	63	0	0	0	63
	トキソプラズマ病	0	0	0	0	0	0
	膿 毒 症	47	47	0	0	0	47
	敗 血 症	20	124	124	0	0	0
	尿 毒 症	30	30	0	0	30	0
	高度の黄疸	40	40	0	0	40	0
	高度の水腫	33	33	0	0	0	33
	高度の腫瘍・白血病	72	486	0	0	0	486
	全身に及ぶ変性	16	16	0	0	0	16
	全身に及ぶ炎性産物等による汚染	143	143	0	0	0	143
	そ の 他	5	20	0	0	20	0
食鳥検査法	小 計	2	10	0	0	0	10
	鶏 白 血 病	0	0	0	0	0	0
	マレック 病	2	10	0	0	0	10
	腫 瘍	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	0	0	0	0	0	0

2)牛海綿状脳症スクリーニング検査実施状況

年 度	総 数					(株)群馬県食肉卸売市場					高崎食肉センター				
	検査頭数 (※1)	再 検 査		確 認 検 査		検査頭数 (※1)	再 検 査		確 認 検 査		検査頭数	再 検 査		確 認 検 査	
		実施頭数	実施率	陽性頭数	陰性頭数		実施頭数	実施率	陽性頭数	陰性頭数		実施頭数	実施率	陽性頭数	陰性頭数
令和6年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	※ 3				
令和5年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
令和4年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
令和3年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
令和2年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
令和元年度	1	0	－	0	0	1	0	－	0	0					
平成30年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
平成29年度	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0					
平成28年度	555	0	－	0	0	555	0	－	0	0					
平成27年度	623	0	－	0	0	623	0	－	0	0					
平成26年度	594	0	－	0	0	594	0	－	0	0					
平成25年度	3,615	0	－	0	0	3,615	0	－	0	0					
平成24年度	15,615	0	－	0	0	15,615	0	－	0	0					
平成23年度	13,181	0	－	0	0	13,181	0	－	0	0					
平成22年度	19,411	1	0.01%	0	0	15,688	1	0.01%	0	0	3,723	0	－	0	0
平成21年度	22,048	1	0.00%	0	0	17,214	1	0.01%	0	0	4,834	0	－	0	0
平成20年度	22,398	16	0.07%	0	0	16,667	10	0.06%	0	0	5,731	6	0.10%	0	0
平成19年度	22,433	1	0.00%	0	0	16,960	0	－	0	0	5,473	1	0.02%	0	0
平成18年度	22,084	10	0.05%	0	0	17,366	10	0.06%	0	0	4,718	0	－	0	0
平成17年度	22,077	29	0.13%	0	1	18,140	25	0.14%	0	1	3,937	4	0.10%	0	0
平成16年度	23,826	78	0.33%	0	6	19,961	70	0.35%	0	6	3,865	8	0.21%	0	0
平成15年度	22,407	32	0.14%	0	4	18,531	27	0.15%	0	3	3,876	5	0.13%	0	1
平成14年度	23,574	27	0.11%	0	0	19,700	24	0.12%	0	0	3,874	3	0.08%	0	0
平成13 年度(※2)	14,184	53	0.37%	0	3	11,883	42	0.35%	0	3	2,301	11	0.48%	0	0
累 計	248,626	248	0.10%	0	14	206,294	210	0.10%	0	13	42,332	38	0.09%	0	1

※1:検査頭数は、年度内に実施した牛海綿状脳症スクリーニング検査頭数である。

※2:13年度は、検査を開始した10月18日以降の実績を示す。

※3:平成23年度以降は高崎市(中核市)が独自に実施するため本表に計上しない。

2 食肉衛生に関する検査・調査

1) 残留抗菌性物質の調査結果

① 畜種別検出状況(令和6年度)

畜 種	検査頭数	検出頭数
牛	5	0
子牛	0	0
豚	0	0
馬	0	0
合 計	5	0

② 薬剤の検出状況

年度	畜種	頭数	検出薬剤
令和6年度	—	0	—
令和5年度	—	0	—
令和4年度	—	0	—
令和3年度	—	0	—
令和2年度	—	0	—

2) 残留有害物質モニタリング調査

① 調査実施検体数(令和6年度)

項目 検体			合計	抗生物質	内部寄生虫用剤	合成抗菌剤
計			404	404	0	0
牛	58頭	筋肉	58	58	0	0
		腎臓	58	58	0	0
豚	89頭	筋肉	89	89	0	0
		腎臓	83	83	0	0
鶏	61 ロット	筋肉	61	61	0	0
		腎臓	55	55	0	0

② 調査結果

調査を実施した404検体中、基準値以上の残留有害物質を検出したものはなかった。

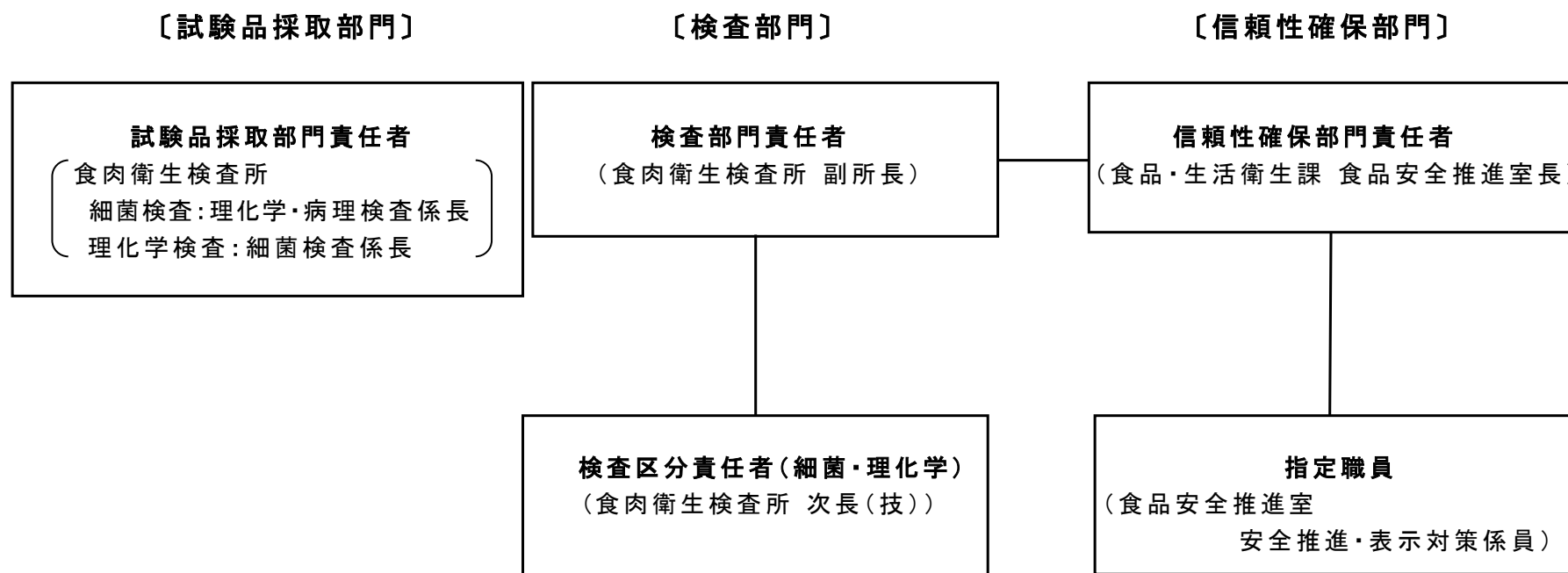
③調査薬剤別検体数(調査実施検体数の再掲)(令和6年度)

		合計	抗生物質	内部寄生虫用剤	合成抗菌剤
計		404	404	0	0
牛	筋肉	58	58	0	0
	腎臓	58	58	0	0
豚	筋肉	89	89	0	0
	腎臓	83	83	0	0
鶏	筋肉	61	61	0	0
	腎臓	55	55	0	0

3 食肉衛生検査所における検査の業務管理基準（GLP）について（令和7年4月1日現在）

当所が実施する各種試験検査のうち、GLPの対象となる検査は、食肉中の抗菌性物質等の残留有害物質モニタリング検査、対米等輸出食肉に係わるサルモネラ検査及び腸管出血性大腸菌（STEC）検査である。

組 織 図



※群馬県食品衛生検査施設業務管理要綱
(最終改正:令和6年4月1日)に基づく

4 学会・研究会等への報告

調査研究題目	発表者	報告年月日	報告学会等
1 群馬県内の豚における豚丹毒菌分離状況	小屋原 美里 井上 伸子	令和6年9月1日 令和7年1月24日	・令和6年度獣医学術関東・東京合同地区学会 ・第42回日本獣医師会学術学会年次大会
2 めん羊枝肉表面のふきとり検査および保菌状況調査について	森田 聡志	令和6年9月1日	・令和6年度獣医学術関東・東京合同地区学会
3 県内における使用頻度の高い抗菌性物質に対する微生物学的検査法の検討	塩田 悠月	令和6年10月4日	・全国食肉衛生検査所協議会第42回理化学部会研修会
4 食鳥処理場における生鳥の保管管理について～動物福祉(アニマルウェルフェア)の観点から～	石原 大輝	令和6年10月25日 令和7年1月24日	・令和6年度関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会業績発表会 ・令和6年度食肉及び食鳥肉衛生技術研修並びに研究発表会
5 鶏の体腔内腫瘍	野田 瑞穂	令和6年10月31日	・全国食肉衛生検査所協議会第81回病理部会研修会